

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

推進員の役割・関係者との連携に関する質問

質問：

推進員のことをもっと多くの人に知ってもらいたい、こんな事業をしていますということを広報したいと思っていて、SNSを始めようと思っています。皆さんは広報等のことでSNSを利用したり、それ以外に工夫されていることはありますか？

回答：

(近藤さん)

SNSで発信して届けたいのはどんな情報でしょうか。また誰に向けて発信したいのでしょうか。これらを先に確定しないとその後の方法論は議論できないと思います。例えば、若い世代にということであればSNSは選択肢かもしれません。アナログですが、ポスター等を人が集まるドラッグストアやクリニック、ホームセンター等に貼ってもらうとか、ポスティングする等の方法の方が目に留まるターゲット層もありますので、誰に何を届けたいか、届けてどうなってほしいかという目的の部分の部分を先に検討されるとよいと思います。

(金谷さん)

鳥取市では「推進員新聞」を作成しようと、みんなで話をしています。推進員の活動は目に見えにくいことも多いので、推進員のことを知ってほしいという思いは良く分かりますが、大切なのは何の為に知ってもらうのかだと思っています。包括職員として事業を周知し、認知症の事業を推進していくことだけではなく、認知症地域支援推進員として「認知症になってからも自分らしく暮らせる町を、認知症の人と一緒に創っていること」も伝えると、仲間が増えるのではないかと考えています。

(真子さん)

私のところは、近隣の推進員同士が集まり、定期的に合同の活動をしています。その定例会で、推進員の存在を知ってもらうために、医療機関やコンビニなどに推進員のポスターを作って貼ってもらってはどうか…と、検討したことがありましたが、広報の内容によっても、新たな誤解や偏見をうまないか、危惧し、実行には移せていません。

世界認知症月間(普及啓発活動)の時に配布した資料には、本人さんの声を掲載したチラシを配布しました。認知症への偏見や誤解を払拭するためという目的でした。何を目的にするかによっても、広報の方法が変わるかもしれないですね。

(速水さん)

コミュニティFMに市役所の番組があり、毎年9月の認知症月間に合わせて出演しています。そこで、認知症施策のPRをしています。

(谷口さん)

知ってもらいたい目的は何でしょうか？それによって発信の仕方も色々あるかと思います。活動に協力してほしいなら、広報よりも直接協力をお願いするのも一つかと思います。知ってもらって、そのあとどうするか？知ってもらって終わりなら広報しても伝わらないかと思います。そこの目的をもって広報する方法を考えればいいかなと思います。

(池原さん)

福山市北部包括ではSNSは利用していませんが、包括支援センターの便りに事業を掲載してもらい、出前講座や民生委員の会議等で配布しています。また、包括支援センターの便りを法人のホームページに掲載してもらっています。福山市としては、広域での啓発目的でLINE、Facebook、Instagramを活用したり、福山市認知症ナビにイベントの記事を掲載して周知を行っています。

(那須野さん)

SNSの利用、有効ですね。SNSを住民の皆さんも一緒に使えるようなスマホ講座みたいな企画も考えてみると、より有効的なSNSの活用に繋がり広報活動の幅が担保できると考えます。

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

推進員の役割・関係者との連携に関する質問

質問：

推進員以外の関係者(特に生活支援コーディネーター)との関係性をどのように思いますか？ 移動手段を、推進員が考える？他の関係者が考える？など。

回答：

(近藤さん)

推進員、SC等々のそれぞれの役割は、きっちり線が引けるものではなく、重なる部分もとっても多くあると思います。協力者になり得る人は、非専門職も含めて地域にはたくさんいらっしゃると思いますので、取組ごとに、目的に合わせて協力者を見つけ、協議して、役割分担する方が一見手間がかかっているようにみえますが効率的だと思います。移動手段は、テーマが大きいので、どの役割が考えても100%誰もが満足できる方法論は浮かばないと思います。重複しますが、取組ごとに目的に合わせて、コラボ相手を見つけていくとよいと思います。

(金谷さん)

生活支援コーディネーターをはじめとする関係者、地域住民や企業も含め、ともに暮らしやすいまちを創る仲間だと思います。生活支援コーディネーターも認知症地域支援推進員も「移動手段を考える人、創り出す人」ではないと思います。課題を共有し、解決に向けて知恵を出し合い、一緒に考える続ける仲間だと私は思います。

(真子さん)

昨年までSCと推進員の兼務だったので、地域づくりもしていました。現在、SCの委託先が市の社協へ変わり、連携がとても大切であることは、重々、理解していますが、とても苦慮しています(誰がその地域の担当かにもよるみたいですが…)。移動手段を考えるのは、専門職ではなく、住民さん(認知症の本人)だと私は思っています。専門職が作ったものを住民さん(認知症の本人)に使ってもらうのではなく、一緒に考え、一緒に作っていくものが、地域づくりだと思います。SCとの連携…できるだろうか…不安ですが、私も頑張ります…。

(速水さん)

釧路市では認知症地域支援推進員と同様に、各包括支援センターに専任で1名ずつ生活支援コーディネーターを配置しています。同じ包括内で情報を共有し、それぞれの活動を行っています。内容によって活動が被る部分もありますが、そこは包括内で十分話し合いをもって活動する様お願いしています。

(谷口さん)

地域づくりをする中で、重なる部分も多くあると思います。特に生活支援コーディネーターは守備範囲が似ていたりもします。変に分断せず、一緒にできることは一緒にやった方が効率がいいと思います。

(池原さん)

移動手段については推進員だけで考えることはなく、包括と一緒に考えたり、地域ケア会議を活用して、生活支援コーディネーターや学区担当保健師、担当課保健師、民生委員等に参加してもらってます。

(那須野さん)

一緒に共有することが大切かと思います。移動手段を作るのではなく、移動資源(バス、タクシー、電車など)の把握と地域の心遣い(乗せていくよ、隣同士何かある時は相乗りなど)など、既に存在しているものの利便性を一緒に考えたり時に何もせず見守る姿勢、一緒に共有する事(心合わせすること)が大切かと思います。

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

推進員の役割・関係者との連携に関する質問

質問：

医師との関係づくりについての質問です。推進員として医師とどんな関係が理想的なのでしょう？オレンジドクターはいらっしゃるが、ほとんど交流がありません。専門医とかかりつけ医との役割もそれぞれのように難しいです。

回答：

(近藤さん)

医師に限らず、いろいろな取組があるので、顔の見える関係になって、コミュニケーション量を増やして、気軽に話せる人が多くいる方が、いろいろな取組を成功させるカギだと思います。推進員の仕事のすべての工程を推進員が行うことはできません。「縁」を大切にして、取組ごとに協力者を見つけることをお勧めします。

(金谷さん)

どのような関係性が理想なのか、私にも分かりませんが、私は同じまちに暮らす一人の人として、暮らしの視点も持ちながらそれぞれの専門性を発揮して行けるような関係が良いなあと考えます。

(真子さん)

私の地域でも、主治医と専門医との関係性は重要視されており、紹介状がないと専門医を受診することはできません。紹介状を持って専門医で、詳しい検査をして、確定診断を受けた方は、かかりつけ医へ戻されます。そもそも、かかりつけ医の先生が「高齢だから仕方ない」と、専門医への受診を阻止されるケースも少なくありません。“これはまずい!!”と思い、疾患センターのコーディネーターを介し、医師と話をする機会を作ってもらいました。医師へ伝えたことは、認知症と診断を受けた方の重度化するまでの空白の期間の過ごし方と現状、認知症地域支援推進員が地域で認知症の人の声を聞き、地域づくりを一緒におこなっていることなど、認知症の人の暮らしの現状です。行き過ぎていたかもしれませんが、“診察時に地域には、推進員がいます。繋がってくださいと、声をかけてもらえないか”と、打診しましたが、返答は、「医師は、診断するだけだから」でした。そこで、諦めるのではなく、疾患センター主催の世界認知症月間の研修会で、認知症当事者の丹野智文さんに来ていただき、講演をしていただきました。講演以外に、セッションの時間も設けましたが、上記医師にもセッションに壇上いただき、また、空き時間もたくさん、丹野さんと話をされました。そこから、この医師の認知症観が変わり、様々な場面(医師同士の研修会)で、認知症の本人の声を聴くことの大切さや、医師は診断するだけでなく、地域に繋げることも大切だと発信していただけるようになりました。
【本人発信は、人(医師)の心を動かす】これに尽きます。

(速水さん)

医師にも色々なタイプがいますよね(笑)こちら側(医療と介護でいうところの介護側)に理解を示してくれる人とそうでない人。相談事を持って行くのはそれぞれの医師にお願いに行きますが、親身に聞いてくれる人とそうではない人がいますので、親身に聞いてくれる人と仲良くします(笑)。釧路市は幸いなことに、疾患医療センターの専門医が非常に頼りになり、ケース支援のことも真剣に考えてくれるので助かっています(ちなみに初期集中支援チームの医師です)。

(谷口さん)

医師に何を求めるか、で関わり方は変わると思います。まさに、一人の支援から、その方のかかりつけ医とかかわりを持って、そこから専門医につながる等でもいいかと思えます。何も目的なくいきなり専門医にはつながりにくいので

(池原さん)

推進員として活動を始めた時に、地域の医師、オレンジドクターや専門医を訪問して挨拶をしました。個別の相談で医師と関わるだけでなく、地域の医療・介護・福祉等の関係機関が地域づくりを一緒に考えることができる関係が理想的と考えます。すぐにはオレンジドクターとの交流はできないかもしれませんが、ちょっとしたきっかけ(多職種連携会議や地域ケア会議等も含めて)で話が出るタイミングを重ねていきたいです。

(那須野さん)

医師と直接でも、在宅医療、介護連携事業の枠組みなど利用する中で話題として投げかけていくことも近道では？

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

推進員の役割・関係者との連携に関する質問

質問：

ステップアップ講座だけ先にやろうと思って考えている行政とぶつかってしまいます。目的がないままステップアップ講座をするより「これをやりたい」という声が上がったあとに、サポーター講座を受けている方にステップアップ講座を受けていただいてもいいのかなと思っているのですが…。

回答：

(近藤さん)

質問者の認識の方を支持します。国が事務局を担っている団体に作らせたテキストが弊害だと思います。ステップアップ講座だけやってもなんの意味もないし、成果も挙がりません。誤った成果主義に付き合う必要はありません。

ステップアップ講座は手段です。その先に誰がどのように恩恵を受けるか、どう変化するか、それが成果であって、そのためにチームオレンジという政策(手段)があります。

行政マンが誤った成果主義に陥らず、正しく認識してもらえることを期待します。

(真子さん)

目的のないステップアップの講座を開催されているところは、どのような内容で組み立てられているのかなと思います。“これをやりたい”や“やっていく中でこんな課題が出てきたけどどうする？”という本人さんや住民さんの声から、“じゃ、課題は何だろう”“学ぶことは何だろう？”と、一緒に考え、学びを深めていくことが大切だと思っています。

(速水さん)

いいと思いますよ。行政の担当者に「先にやってそれからどうすんの？」って聞いてみたらいいと思います。こっちはこう思っているんだけどっていうコミュニケーションを取ってみるといいのではないのでしょうか。

(谷口さん)

おっしゃる通りだと思います。ステップアップ講座に興味があったりやりたいという気持ちがないと、無理やりそれを住民にやってもなにも伝わりません。

(那須野さん)

無理してやらなくても、これやりたい、これ考えようみたいな感じがステ講座なのかもしれません。

(神崎さん)

認知症に関心がある方、何か力になりたい等個々の目的はあるかもしれません。全員が実際活動することは難しいと思いますが、意欲的な方が受講するので、その後周辺で当事者やご家族の為の活動に繋がるかもしれません。ただ開催目的はしっかりと受講者と共有したほうが良いかと思います。

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

推進員の役割・関係者との連携に関する質問

質問：

ステップアップ講座を市が毎年行っており、参加してくれる人を探すのを毎回困っています。毎年、ステップアップ講座を行っていますか？

回答：

(近藤さん)

市が毎年行っているステップアップ講座は、何の目的で、誰のために行っているのでしょうか？

参加してくれる人を探さないといけないような不人気な講座はやめてしまう方が良いと思います。探す時間があつたら、もっと別に、いろいろな取組の協力者を探す時間に充てた方がタイムパフォーマンスが良いと思います。働き方改革という言葉もありますので、やめるべきものをやめる勇気を、行政マンが持つことを期待します。

(真子さん)

市が毎年、ステップアップ講座をおこなっている目的は、何でしょうか。ステップアップ講座を受けた人の人数、実績を残すためのものになってはいませんか。

私は、認知症サポーター養成講座もステップ講座もやっていません。

認知症講座を小さい町内会単位で、繰り返し実施しています。講座の内容は、新しい認知症観、誤った認知症予防、認知症への備え、認知症の人の社会参加、認知症の人の声などです。私の目的は、参加者の人数を増やすことではなく、地域にある認知症への偏見や誤解を払拭することです。認知症の相談窓口が推進であつて、推進員は、認知症の人の声を聞き、一緒に考え、一緒に行動する人であることを、多くの住民さんに知ってほしいと思つて、活動しています。どうやつたら、安心して認知症になれる地域が作れるのか、そのことを考えながら活動しています。

(速水さん)

釧路市も毎年行っています。基本の参加者はその年度に認知症サポーター養成講座を受講した人を中心に案内していますが、過去にサポーター養成講座を受講した人も何度でも受講していいことにしています。

(谷口さん)

開催ありきではなく、ステップアップ講座が今必要なのか、受けてほしい人がいるのか、講座受講後のビジョン(受けてもらった人に何を求めるのか等)をはっきりしておかないと、いくら呼び掛けても、何のために受けるのかわからないと思います。

開催することを目的とせず、なぜステップアップ講座が必要なのかということを検討してみたいかがでしょうか。

(那須野さん)

必要な時に必要な内容を仲間と一緒に考えることがステ講座の本質だと思います。

義務ではなく自然体で考えれば良いですよ。

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

推進員の役割・関係者との連携に関する質問

質問：

行政から認知症サポートリーダーの役割を作るように言われることがあるのですが、よくわかりません。皆さんの地域で認知症サポートリーダーだからできる役割などありますか？

回答：

(近藤さん)

認知症サポートリーダーとはどのような役割を担う人のことでしょうか。独自のものだと思います。認知症サポーター側のリーダーですね??? キャラバン・メイトの上位者であれば、意図は理解できます。資質向上になりますし、今後の新しい認知症観の普及をどうするか等を検討するリーダーにできますから、有効な気がします。サポーター側のリーダーは、私の頭では、意図が理解できません。

(真子さん)

認知症サポートリーダーは、“認知症の人やその家族をサポートするボランティアや地域での啓発活動を行う人”らしいです。認知症の当事者が、認知症サポートリーダーを作してほしいと望んでいるのでしょうか…。

認知症サポートリーダーになった人が、新しい認知症観を持った人でなければ、新たな偏見や誤解が地域に広がるのではないかと、私自身、危惧しています。何のために、共生社会の実現を推進するための認知症基本法が施行されたのかを理解し、地域に矛盾が生まれないように、推進員である私が目的を持って、活動していきたいと思っています。サポートリーダーだからこの役割、推進員だからこの役割というその垣根を超え、誰であっても、最初に認知症の人の声に耳を傾けることから初めていきたいと思っています。

(速水さん)

ごめんなさい。サポートリーダーの立ち位置が分かりません。行政の担当者に「サポートリーダーは何をするどんな人ですか？」って聞いてみるといいんじゃないでしょうか。

(谷口さん)

私自身、認知症サポートリーダーというものについて把握していないのですが、自治体独自のものでしょうか？ サポートリーダー自身が役割をつくるのではなく、その役割は行政の人と一緒に相談した方がいいと思います。行政はサポートリーダーに何を求めているのか。そこの確認はした方がいいと思います。